

早稲田医学院歯科衛生士専門学校自己評価(I科・II科)27年度

早稲田医学院歯科衛生士専門学校教職員による無記名アンケート方式

※アンケートは各質問項目に対して

4：十分に達成している

3：おおむね達成している

2：どちらかというとは達成されていない

1：ほとんど達成されていない

の4段階で評価したものを集計し、その平均値を評価基準として採用した。

また、達成が不十分な項目については、今後取り組む課題も検討することとした。

学校教育理念 (教育方針)	生涯を通して歯科衛生士として輝き続ける 歯科衛生士として専門分野の充実に加え、ひとりの人間としての資質向上を図る
学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・素直であること ・まじめであること ・感謝の心を持つこと ・独立心を養うこと
重点努力目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療人としての目的意識を高め、自己管理能力を身につける ・歯科衛生士として必要なライフステージに合わせた臨地実習の確保に努める ・臨床実習期間中に歯科衛生士業務をより多く体験し、即戦力を身につける

評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	評価			成果と課題
				前半	後半	年間	
1.教育課程・学習指導							
(1)科目編成における内容や工夫	医療人に必要な一般教養科目や選択必修科目のカリキュラム編成	一般教養科目や選択必修科目であっても歯科衛生士教育内容と関連づける	担当講師に対し歯科衛生士国家試験内容やシラバスをもとに他科目との関連を働きかける	3.3	3.6	3.4	シラバスの提示は、できているが活用まで至っていない
	資格取得後に必要となる応用力を養うカリキュラム編成	段階を踏みながら科目間関連を意識して設定	基礎科目の事前学習や講義・実習後の事後考察を取り入れる	2.9	3.3	3.1	事前学習の積極的導入開始 基礎力の修得
	実践力・即戦力を養うカリキュラム編成	臨地・臨床実習内容の充実	ライフステージに合わせた臨地実習や臨床実習において直接対面行為等の実施を取り入れる	2.9	3.2	3.0	新しい臨地実習内容の導入。夜間部でのライフステージに応じた臨地実習先の確保
(2)学生教育における内容や工夫	シラバスを作成し学生に計画的な学習をさせる	シラバスを作成し学生に配付することにより計画的な学習指導につなげる	シラバスを作成し学生は事前に学習内容や進行を確認担当講師は科目間の関連を確認して学年に応じた内容で充実した教育につなげる	3.4	3.6	3.5	事前学習の導入により理解度の把握がある程度できた。さらに学習意欲低下を防止する方策の検討。
	学生の理解度を向上させる	1年次より学力不足や学習習慣の未定着者への働きかけ	形成的評価結果に応じて理解度を確認し授業構築や授業内テストなどの実施	2.9	3.3	3.1	個別に学習習慣等の把握をする必要あり

評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	評価			成果と課題
				前期	後半	年間	
2.生活指導							
(1)生活指導	自己管理能力の向上を図る	身だしなみ・健康管理・時間・報連相・持ち物管理の徹底	専任教員が中心となり必要性を説き、出席確認時や基礎実習時に随時働きかける	3.6	3.7	3.6	自動化に至っていないため、指導方法も引き続き検討
		健康管理の徹底	健康診断後の事後措置、早期の受診勧告とワクチン接種等を働きかける	3.6	3.9	3.7	個別で受診を促す働きかけはできた 早期受診遅延
(2)学生対応	問題行動の予防に努める	問題行動(不登校・素行不良・学力・技術力不足)への早期対処	入学後の適性時期の個別面談の実施	3.2	3.6	3.4	個別面談の方法時期を要再検討
			必要に応じて保護者への報告(電話、文書、面談)	3.7	3.9	3.8	学生指導方法の検討により必要事項の決定ができた。
			担任を中心とした早期の学生指導の実施	3.4	3.7	3.5	
3.進路							
(1)職場開拓	歯科衛生士としての職の幅の拡大を図る	臨地・臨床実習において歯科衛生士としての活躍の場を知る	ライフステージに合わせた多種多様な体験を通じて将来的なビジョンを描けるように働きかける	3.3	3.3	3.3	夜間部も臨地実習開始できた。 さらに幅を広げる必要がある。
(2)資格取得	歯科衛生士国家試験合格率100%を目指す	段階別・科目別の国家試験対策の展開	担任が中心となり成績レベル別、時期に応じた国家試験対策の実施	3.9	3.5	3.7	担任の負担が大きい 成績低迷者への早期対応方法
(3)就職支援	就職率100%の確保	在学中に内定率100%を目指す	就職セミナーの開催、学生の希望に則した就職先の個別助言の働きかけ	3.1	3.2	3.1	就職先が多いことから学生が早期に決める気持ちに欠ける
4.社会人適応力							
(1)社会適応力の向上	自己の行動に対する問題解決能力を育成する	段階に応じた自己の行動での問題に目を向けさせ自ら問題解決方略を検討させる	場面に応じた到達目標を設定し事後の振り返りを行い考察させる	2.8	2.9	2.8	コミュニケーション学等の授業が実際の行動に反映されていない。学内での規律と臨床現場でのルールが関連づいていない。 自己の行動に対する目標設定や反省、考察力が不十分
	医療人としてのコミュニケーション力の向上を図る	場面に応じたコミュニケーションに必要な知識や技術を得る	コミュニケーション学や接遇マナーなど積極的に一般常識も含めた講座の開催	3.1	3.2	3.1	
	医療人としての規律性を身につける	日常生活において規律遵守を働きかけ学生自身にも意識付けを図る	学則に基づき規律違反の者には適切な対応を行い、処罰に発展しないよう早期の学生指導を心掛ける	3.3	3.3	3.3	

評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	評価			成果と課題
				前半	後半	年間	
5.広報							
(1)学生募集	昼間部・夜間部の安定的な学生確保	計画的な高校訪問と歯科医院訪問の実施	配布チラシ等の活用と訪問～来校～出願につながるようイベント開催やDM作成	2.4	2.4	2.4	歯科医院訪問が結果につながっていない。イベント開催の予定
	歯科衛生士の認知度の向上	高校訪問における高校教諭や保護者への働きかけの実施	積極的なメディア対応やホームページ活用、広告ツールの展開を検討	3.1	3.0	3.0	礼状および歯科衛生士の周知ツールの配付を開始
6.組織・運営							
(1)学校運営と資質の向上	学校運営における方針の共通認識を持つ	年度ごとの目標(学校・自己)を提示し全職員で情報共有する	全体会議での目標提示と半期、年度末の振り返りを実施、必要に応じて部署会議等の開催で達成のための方策を検討する	3.6	3.8	3.7	前後期に分けて職員による自己点検の実施。HP上で公表引き続き、課題に対する検討を実施
	学校自己評価を実施、結果公表を行う	毎年学校自己評価の実施	結果に応じた検討を行い、結果についてはHPで公表	1.7	2.6	2.1	
	教員の教育力の向上	専任教員間の授業評価と後進指導の実施	自己研鑽のための学会、講習会の積極的参加	2.8	3.1	2.9	科目間授業内容の徹底、教育学会参加
	外部講師との連携	授業内容や試験の実施等の希望を専任教員から働きかける	学生アンケートの結果に基づき教育内容の充実を図る	2.9	3.2	3.0	学生アンケートの時期や内容を要再検討
7.施設・設備・情報							
(1)施設・設備と安全管理	安全管理	定期的な設備点検と整備	施設点検、電気保安協会、エレベーター、消防点検の実施	2.9	3.1	3.0	一部実施中、施設管理一元化等の検討
		災害時の対応 防災用品の確保	避難場所提示と訓練の実施、飲料水と乾パン確保	3.3	3.3	3.3	水、乾パンは準備、災害マニュアル要作成
		省エネとエコロジー 運動の推進	未使用教室の消灯、節水、分別ゴミの徹底を図る	3.1	3.4	3.2	訴えるだけでなく、学生参加の必要性
	施設・整備の充実	教育機器の整備、購入の検討	年度毎教育機器の検討を行い必要に応じて更新を図る	3.0	3.1	3.0	教育内容向上のため教育機器の購入予定
(2)情報管理	個人情報の管理	パソコン内のデータ管理の留意する	学生募集に掛かる情報は管理ソフト(infoクラウド)で在校生管理も徹底を図る	2.8	3.1	2.9	若干の改善はみられるが、学生情報管理については更に要検討
		学生情報の持出禁止	USBで情報移動させない	2.9	3.4	3.1	

【自己点検後の総括】

2015年前期末より自己点検を全職員に実施したことで、学内におけるさまざまな課題をひとりひとりが考えるきっかけとなった。よって、後期末には課題提示と改善方策で挙げられたものがすでに実施されたものも多くあり、年度末の自己点検については、概ね点数が高くなった。今後は引き続き視野を広げ、職員の部署が異なっても学校教育および運営の一員として自己の役割の幅を広げ、全職員参加型の実行力を発揮していけることが期待される。